

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ました9番山口良広です。きょうは、私が考えています災害復旧では、上田議員や吉川議員のほうからいろいろと意見を聞き、答えも出てきました。しかし、私も私なりに主張の機会を得ましたので、時間いっぱい一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

今回の7月25、26日の水害で被害を受けられた皆さんに対し、心からお見舞い申し上げます。それと同時に、一生懸命交通指導から水害復旧まで御尽力された消防団員の皆様に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。また、災害復旧のごみ出しや消毒までと、一生懸命働いておられた武雄市職員の皆さんに本当にありがとうございましたと言いたと思います。いろんな皆様のおかげで武雄市はいち早く立ち直ったことに対し、改めて武雄市民の頑張りに敬意を表したいと思います。

そんな中で、幾つかの問題点や要望点を私なりの視点で質問をしたいと思います。

今回の水害では、朝日地区では六角川流域、特に高橋ではポンプも3台設置されたことだし、もう水害の心配はないというふうな気持ちが地域住民に広がっているのが現実でした。そんな中で今回の大水害、地元人はびっくりしたものだと思います。その点、どんなところにこの水が、水害に問題があったのか、それと同時に今回の水害では情報をどう市民に伝えるかということで先ほど吉川議員のほうで無線等のことがありました。どうしても私たちの年代になりますと、映像が主体になります。そんな中で私なりに考えたものがあります。それは、今回の水害時のような場合、市民の皆様にもどうしても私たちは映像で見たいなという感じがあるわけです。そうした場合、杵島地区には有線テレビがあります。この有線テレビの中に水害警報発表と同時にいろんな情報を、雨量や予報、ポンプの運転状況、交通規制などいろいろな情報を有線テレビの協力を得て瞬時に映像として放映してもらうことができれば、もっと我々は無線等や、また拡声器等の音量ではこの雨の多い中、風の多い中では厳しい面があるかと思えますけど、今のところ、一部を除けば電源が切れるというものは余りありません。その中では、映像、有線テレビは見るんじゃないかと思えますけど、その点も含めてこの情報伝達ということと今回の大雨の特徴等を質問したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、今回の豪雨の特徴でございますけれども、これは今日よく言われますゲリラ的豪雨というような部類に入るんじゃないかなというふうに思っています。特に26日、これは雨の降り方としては断続的な降り方ではなくて、午前6時から降り出した雨が、テレメーター雨量で正午までに継続的に激しい雨となったと。6時間で累計雨量167ミリというふうになっ

ております。それから、24日から26日にかけての総雨量では444ミリと。これは佐賀県内でも7月の平均の月降水量を上回る大雨というふうになっております。

それからもう1つ、映像での放映ということでございますけれども、武雄市災害対策本部が設置されれば、ケーブルテレビを通じて情報の提供を行うということになっております。今回も災害本部を設置したことによりまして、災害特別番組ということで六角川の監視カメラによる映像配信、それから土砂災害情報、道路の冠水情報等を随時放映していたということでございます。これからもケーブルテレビともこういったことを十分協議をしながら、映像による情報配信ということは今後とも続けていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私もちょっと災害時で余りテレビの前にはいませんでしたので、どのくらいの映像かというものが余りわからなかったんですけど、そんな中でもっといろんな形の中での確かなものができないかなというふうな意見を聞いたので出したわけです。もっとこれが充実されて、先ほどの無線とセットになった形で情報の伝達ができればありがたいと思います。

では、次に移ります。いつものことですが、火災、水害、災害となりますと、消防団の皆さんの力をかりるわけですが、先ほど消防団の活躍というものが言われました。そんな中で具体的に消防団の活動というものがどんなものがあったか、お聞かせいただければありがたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

これは何回ともなく今回の議会で御答弁しておりますけれども、非常に消防団の方々には多大なる労力をおかけしたと。まず、現場にいち早く行っていただくのが消防団の方々でございます。そこからの情報発信というのが非常に災害対策本部においても重要な情報となっているところでございます。

まず、主な活動でございますけれども、大雨洪水警報発令時から危険箇所等のパトロールをしていただいております。

それから、道路冠水に際しましては通行どめ、それから迂回指示、こういったことを行っております。

それから、家屋が浸水したところにつきましては、周辺に土のう積み等のこともやっております。それから、土砂災害の応急対応ということで、青のシート張り等も行っていただいております。

それから、避難時の対応ということで、想定による避難、それから避難誘導、それから非常食の搬送と、こういったこともやっていただいております。

それから、災害事後の対応というふうなことで浸水被害の後片づけ、道路清掃、こういったことに精力的に活動をしていただいたということでございまして、延べで722人の出動をいただいたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今、いろんな場面での危険箇所のパトロール、情報の伝達、通行どめ等、いろんな消防団での活躍があると聞きました。そして、この前、夏季訓練ということで橘と朝日の団は一緒にするわけです。その中で、橘の区長さんからの話でしたけど、片白地区ではひとり世帯の方が水害でつかっている畳を上げたり、いろんな家具等を上げたりと、今度の消防団の活躍というものは細かいところまで行き届いたよということを言われていました。そんなような形で消防団の活躍ができたということ、若い人の中でこんな青年や消防団員の皆さんが育ったということ、私をうれしく思うわけです。

そんな水害対策の中で、先ほど水害対策処理のことが出ました。それについてです。六角川沿いの高橋地区ではヘドロが停滞し、道路など舗装箇所では乾かないうちに流さないと厄介なものになるわけです。そこで、つい消防団の御協力をお願いするわけです。私たちが現職をしていた20年前ごろと比べますと、団員の数も減少されたし、勤めに出ている方が大半だと思っております。そんな中で今回のような出動は前にもありましたように、二晩続けての活動で、くたくたな中で水害跡地の処理というものに大変御苦労されたと感謝したわけです。そんな中でどうしても地域の道路や舗装地を清掃するときは消防の水圧、水量というものが必要不可欠となってくるわけです。消防団につき無理を言ってお願いするわけです。しかし、甘えてばかりいてもいいのだろうかというものを考えたりもします。先ほど地域に自主防災会があるというふうにありましたけど、企業内にも自主防災会、自衛消防団等が設置されているところもあります。そんな中に中古の消防ポンプでもあれば、その企業内やその周辺部の災害復旧にも地域貢献ができるんじゃないかなというふうな声も聞いたわけです。

先ほど言いましたように、高橋地区は3台のポンプが設置されて二度と水害は来ないというふうな神話は崩れました。2年前にも一部のところでは水害に遭ったわけです。そんなときにどうしてもそういうふうな形で消防の力をかりるのは心苦しいのでどうにかならないかというのが私の提案であり質問です。ぜひ企業の自主防災会とか、自衛消防団等の組織がある中に、市内の消防ポンプの更新時に発生する中古のポンプを希望するそういう団体等に譲渡ができないかなということを感じるわけです。以上、質問します。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

企業における自衛消防というのは消防法に定められておりまして、これは一定規模以上の企業ということで、現在、消防法に該当するような企業さんというのは武雄にはございません。ただ、任意で結成されている企業というのは確かにあろうかと思えますけれども、その把握はできていないところでございます。

それから、御提案の消防ポンプ等の期限が過ぎたといいますか、更新をされる際にそういったものを分けることができないかということでございますけれども、一応、小型動力ポンプの更新につきましては、20年使用したものからというようなことで更新を行っておりまして、これも長年使用しておりまして、消耗も激しいというふうなことでその利用は困難かというふうに思いますが、その中でも何とか使えそうだというのであれば、そういったことも考慮したいと思えますが、基本的には消耗が激しいというようなことで利用が困難じゃないかなというふうな理解をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今言いましたように、消防団の皆様に協力を得てするには大変忍びないというものがあります。ぜひそういうふうな地域に自主防災会というものをつくって、自主的な防災組織をつくりなさいというふうなことがあるならば、企業や地域内で、高橋地区、また朝日地区というものは独特の地域です。そんな中で要望があったならば速やかに検討されて、中古ポンプあたりでも提供があれば消防団の皆さんの力をかりずにでもできるんじゃないかなということを考えています。ぜひ希望等があったら、前向きに検討されることをお願いします。

次に、洪水調整池についてです。先ほど吉川議員のほうからも出ましたように、大規模の水害時の水量調整池というものの話がありました。私も先輩議員にこの話をしたところ、前から言っていた話だけど、やっぱり時代が変わり、新しい市長ができれば、こんな話もスムーズにいくんだなということを喜んでおられました。それと同時に、その前に地域には大規模や小規模の堤やダムがあるわけです。農業用であったり、防災用のダムであったり。今度の水害での一番の問題は、小池議員も言われたように野越せ、すなわち想定以上の水が来たときは野越せというところからオーバーフローするような形になっているわけです。その水量をいかにして個人、地域地域の人が責任を持って水量調整をやれば、もっと水害は防げるんだという話を聞きました。

ことしの雨を見ますと、田植え時期には雨が少なく、どこの農業用ため池でも盛んに水を落としたものです。しかし、いつまでたっても雨が降らずに、ことしは水ば落とし過ぎじゃ

ないかということで、しっかりと支川をためていたのも事実です。私が管理していたところもそういうふうな形でしていました。そしたら、降り出したら今度はとまらんと降り出して、もう調整池どころじゃないような状態になっていたわけです。これを考えたときに、私は先輩議員が言われた、そのダムに思い思いの水当番がいるから、その人たちの教育というですかね、指導をして、こんなときにはどンドン水を落としてという指導をしとくはないばもっとよかったばいというふうな話を聞いたわけです。ぜひそんな検討もできないかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員の御苦勞の話を聞いて本当に心が痛みました。確かにため池、武雄の場合は恐らく、これは正確なデータは持ち合わせておりませんが、かなり多いと思うんですね。ほかの自治体と比べると、ため池、堤が多いなというふうに思いますので、これをどう調整すればいいのかというのは、あんまりためとらんぎんた、干ばつになるかもしれんけんですね、後で。だから、その辺はぜひ、やはり自然をよく知られておられる山口良広議員を初めとして、これはやっぱりですね、私も堤の近くに昔住んでおったわけですね。そいぎ、やっぱり一番それを御存じな方というのは、そのこの地区の皆さんたちが一番それをお知りですので、その情報はぜひ共有しなければいけないというふうに思っておりますので、貴重な御意見をいただいたと感謝しております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ちなみに、川登土地改良区の理事をしておられる早田さんは、農業用ため池、庭木ダムですかね、（「庭木ダム」と呼ぶ者あり）庭木ダムに毎日のように行かれて水位調整をされておられます。そんな中で、この後はあやしかばいというふうなことが、やっぱり体の中にわかるそうです。水量の、雨の状態がです。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かにしてください。（「笑い事じゃないよ。大事なことよ」と呼ぶ者あり）山口議員、もう少しまとめをして質問してください。（笑い声）

○9番（山口良広君）（続）

どうも失礼しました。そういう方もおられますので、そういう方の指導でも仰ぎながら、水量調節ができるような形で水管理ができれば、もっと水害というものは少なくなるんじゃないかなということを思います。

では、次に移ります。道路災害についてのお尋ねです。

今回の災害では、武雄武内線が大きな道路被害を受けたのです。幸いなことに、事前に行きだめの指示がなされ、人的被害がなかったことに際し、関係者の判断に心から感謝したいと思います。それと、いち早い対応で片側通行であれ、通れるようになりました。素早い対応をしてもらった県当局並びに市幹部の方に感謝したいと思います。

ここで本来ならば、私は8月30日の開通がこんなに早くできるとは思いもせずに、武内繁昌線の、先ほどの吉川議員の質問にありました、大型農道の重要性を訴えて、その開通をなるべく早くしてもらい、地元住民の要望の高い国道との取りつけ道路の拡張整備をしてくれと訴えたかったわけです。しかし、先ほどの吉川議員の質問の中で早期にできるということを知りましたので、この分はありがたく感謝したいと思います。その先、繁昌黒尾線の拡張も、道路から来た車がこの道路をたくさん通るよということと言いたかったわけです。しかし、迂回路として武内武雄線のほうが開通したので、余り意味がなくなりました。しかし、この繁昌黒尾線の重要性は大きなものがあります。この迂回路として改修しますという声は無理かなと思ったわけです。しかし、ここにあるU字道路は危険です。若木、武雄の近道として、車は制限速度がないことをいいことに直線道路では60キロメートル以上のスピードで走ります。歩道もありません。通学の自転車も通ります。また、この地域は自然が豊かで、田舎が残り、人情味もあり、しかも安全な地域ということで住宅がふえております。子どもたちも10年前には子どもクラブの会員が10人ぐらいでした。それが今は30人を超え、来年までには10戸以上の住宅の建設が予定されています。それが沿線地である黒尾地区です。そこにある1戸の住宅が絡んだU字道路、幸いにも周辺道路は拡張工事がされそうです。ぜひ何とかしてくれというのが地域住民の声です。私の提案はここまでです。最終日にお孫さんを第2保育園に送っておられる黒岩議員が質問されます。その中から改修しますの答弁を聞きたいと思っています。それから後は私も地元の議員として、地域発展のために私のできる範囲で地域貢献をしたいと思っています。最終日の一般質問で改修しますの答えが出ることを期待して、次の質問に移ります。

次に、観光振興についてです。今、武雄では急ピッチで新武雄温泉駅の工事がされています。北口まで含めたオープンはいつごろになるのか、そしてまた、駅舎の装備はどうなるかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

新武雄温泉駅、駅は東京駅をイメージしたれんが調の外観というふうになる予定です。こういう感じで今建築が進められています。（パネルを示す）これはですね、乗ったことがあ

られると思うんですけど、ホームは1つですよ。ホームが1つで線路がその両サイドにあると。しかし、もう1つつくっているのが1番ホームをつくっています。その1番ホームと2番ホームで、ホームが2つ。線路が1番ホームのほうにつきますから、線路は3本というふうになります。

それから、温泉駅ができれば、この高架下に物産館とか案内所をつくる予定にしております。今、つくろうとしているのが、これが案内所のパース図でございます。（パネルを示す）ここに一部、こういうふうな喫茶コーナーを設けたところの観光案内所をつくろうと。こういうスペースのところに物産展示場ができるというふうになっています。

それと、今駅に行けば、南側から駅に入った場合、左側に物産販売所がありますね。あそこが今回は今のところに物産展示場ができますので、その部分につきましてはこういうふうなギャラリーをつくる予定でございます。平面図で見ますと、（パネルを示す）これが今の駅で、これがコンコースですね。コンコースの左側に案内所ができる、ギャラリーができると。それで駅の東側のほうに行けば身障者用の駐車場とか、あるいは駐輪場ができる予定というふうになっております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

では、いつごろのオープンの予定でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

すみません、先ほど言えばよかったんですけど、11月に完成予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今、ベールに包まれた新しい武雄温泉駅の北口を中心とした中心部が発表されました。ぜひ観光の拠点として発展することを期待したいと思います。

私は3月の定例会の一般質問で西九州ルートでは武雄から先はフル規格での工事をされることを訴えました。ぜひ、昨日、前田議員も言いましたように武雄から先を在来線規格ではなく、フル規格で工事をやるということは大事なことと思います。そして、鳥栖でフリーゲージトレインとなって、また、武雄で広い規格になるということは、長崎までの新幹線は武雄に全部とまるということになるわけです。それこそ武雄駅の大事な要素があると思います。その点も含めてこの西九州ルートの思いというものを市長はどう思われているかお尋ねした

いと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

新幹線の西九州ルートについては、これは先般からお答えしていますとおり、あくまでも新幹線は道具なんですね。したがって、いいまちづくりをして1本でも多く、昔ののぞみという名古屋駅のように、とまるように努力をするというのが我々に与えられた政治行政の役割だと思っております。これはまちづくりとセットと考える必要があるというふうに思っております。

さまざまなことをおっしゃっていただきましたけれども、そうかなと思うところと、そうじゃないのになと思うところも多々ありますので、それは行政的にきちんと整理をして鉄道・運輸機構であり、JR九州、国交省にきちんと物を申し上げたいというふうに思っております。

ただ、心配なのは民主党政権に変わって、長崎の民主党の議員さんたちは非常にサインをあらわされていますけれども、佐賀県内の民主党の議員さんがその新幹線に対して、結構冷ややかな目線を、私も直接お話を受けたことがありますけれども、それが非常に気になっていきますので、もう一回きちんと要望を、私たちの声で直接民主党政権、そして国交省に再度し直す必要があるだろうというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私も新幹線特別委員会の一員として、この点は一生懸命審議し、陳情ができるものは陳情し、早い建設が進み、我々の目的が達成することを期待して、新幹線運動を取り組みたいと思います。

では、次に移ります。物産まつりは、ことしはいつ、どこで行われるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

物産まつりは12月5日土曜日、そして翌日6日日曜日、武雄温泉駅を中心とし、周辺部で行います。これは御質問にあります武雄温泉駅の高架完成記念と冠をつけ、駅の完成を祝う形で開催をいたしたいと思っております。さらに、武雄温泉駅並びに東西の高架下を活用し、開催するように実行委員会で今計画を最終的に練っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

物産まつりも北方から山内と移り、今度は武雄の番じゃないかということで市民の関心があると思います。今、市長の声から聞きました。ぜひいい物産まつりとなり、今後、継続的に地域の祭りとして発展するように計画がなされていくことを期待したいと思います。

次に、観光ガイドさんについてです。

今、テレビドラマ「がばいばあちゃん」のロケ地めぐり等の貸し切りバスがたくさん来ているわけです。このロケ地めぐり、川上にある淀姫神社のところですけど、あそこがなぜこんなにお客を呼ぶのかなと思うわけです。確かにテレビの高視聴率もありました。そして、あのあるところの古いたたずまいのよさもあるかもわかりません。しかし、今、この淀姫神社を観光地として一番盛り上げているのは観光ガイドさんじゃないかと思うわけです。観光ガイドさんの流暢なる言葉、私に似ています。（笑い声）この観光ガイドさんをどう育て研修なされているのか、私はこの観光ガイドさんというものは武雄の観光にはなくてはならない人と思っていますので、どう育てていかれるのか、お尋ねしたいです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おかげさまで淀姫神社の場合におきましては、地権者さん並びに地元川上区の御理解、御協力が得られ、年々多くの観光客の方が訪れる、今はもう県内で有数の観光地というふうに言われております。九州で佐賀県といった場合に多くの方が「淀姫神社」ということもおっしゃっています。行く行くは弥生時代の吉野ヶ里を視野に入れていきたいなというふうに思っておるんですけれども、それがあながち冗談ではないのは、対前年比でデータを申し上げますと、全体で11万4,000人お見えになっておるんですね。これは7.6%の増です、対前年比で7.6%の増。特に日帰りは13万5,000人と、10.9%の増となっています。これは議員御指摘のように、観光協会に登録されておられるボランティアガイド、特に高齢者の方が多くございます。自分のがばいばあちゃんとなぞらえて、小さかったときの貧しい話であるとか、思い出話を入れて話をされておりますので、しかも、何人かの観光ガイドさんにはもうファンがいらっしゃるようで、もう何回もその観光ガイドさんの話を聞きに来られる方もいらっしゃるというふうな意味ではフジテレビの「佐賀のがばいばあちゃん」を越えた存在になっているのかなというふうに思っております。この場をかりてお礼を申し上げたいと思います。

この養成につきましては、市でも新規ガイド者の募集、研修、これは講座、現地視察を行っております。私も同行を何度かしましたけれども、非常に綿密なガイド養成を行っていま

す。今後も観光地の魅力アップのための重要なおもてなしの、言い方はどうかわかりませんが、ある意味大使として位置づけて支援をしていきたいと思います。あわせて、このボランティアガイドの方々は、先ほど申し上げたとおり御高齢の方が多くございます。この方々の生きがいにつながるようないろんな支援をしてみたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、この観光ガイドさんの努力に対し、報いるように頑張っていられることが大事だと思います。そんな中で新しいガイドさんがふえて、また、武雄の語り部を聞きたいねというふうな話になることを期待したいと思います。

このテレビドラマ「がばいばあちゃん」の川上淀姫神社周辺のロケ地は、最初はテレビ撮影時だけの協力ということで始まったわけです。その後、高視聴率にも支えられ、ロケ地めぐりの観光地となり、一躍武雄の観光地になったのは皆様御承知のとおりです。その間、正式には朝日町黒尾の山口さん御一家の全面的な御協力のたまものと感謝したいと思います。今回、契約の期限が切れた時点で、お年寄りを抱えた生活では大変重みになるということで、ロケ地跡のおばあちゃんの家は新たなところに引っ越しになりました。最初に言いましたようにテレビ撮影時だけの協力から始まった、テレビドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」のロケ地めぐりとしての山口さん一家の御協力に対し、観光振興に対する貢献というものは多大なものがあると思います。この点、市長は山口さん一家に対してどう評価されるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

淀姫神社にこれだけ多くの観光客の皆さん、地元の皆さんがお越しいただいたということの一番大きな要因は、先ほど御指摘がありました地権者の山口さん御一家の本当に献身的な、私たちに対するおもてなしの気持ち、そして、いろんな生活の御不便があったというふうに直接、間接聞き及んでおりますので、この場をかりて本当にお礼を申し上げたいところがあります。今後は、さまざまな数年間にかけて負担をかけてまいりましたので、ロケ地、まだ移動していないと思いますけれども、対岸のほうに移動をさせていただいて、本当にもとの静かな御生活に戻られるように我々としても支援をしていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今ある間は精神的に頑張ると言われておりますので、終わった時点では報いに対して何らかの形で感謝ができればいいなと思っております。そういうふうな配慮ができることを期待しております。

次に、三樹物語です。前回の一般質問で市長は武雄にある3本の大楠、若木の大楠、武雄の大楠、塚崎の大楠と3本の大楠は後世に残る遺産だということを訴えられました。そんな中で武雄三樹物語を中心にしているいろんな団体が一生懸命この3本の大楠を守り、観光ものにしたいということで頑張られております。その点も大事な武雄の観光になると思いますので、今後、淀姫さんのがばいばあちゃん、その先にあります若木の大楠、また、武雄の大楠となりますので、これは水や木、大楠と自然を大事にする今からの時代にマッチした観光資源じゃないかと思っています。それもぜひ大事に守り、育ててもらえればありがたいと思います。市長、この点、思いをよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄三樹物語の皆さんを初めとして、本当に歴史、文化、さまざまな集まり、個人の方もいらっしやいますけれども、武雄の3本の大楠を中心にさまざまな取り組みがなされておりますので、これについては行政でできる範囲できちんと支援をしていきたいなというふうに思っています。

今後なんですけれども、これはさきの議会でも申し上げましたけれども、3本の大楠、あるいは古武雄を中心としてもう1回見直そうというような集団、集まりの会を立ち上げたいなというふうに思っております。これはあくまでも民間の方々が中心となって主導としていただいて、それで行政が持っている知識であるとか、ネットワークであるということを加味した上で、全市的にそういう勉強会になるものをしていきたいなというふうに思っております。まだ、形は今協議中でありましてけれども、そういった形できちんと残していこうということ、そして次の世代に紡いでいこうということをしていきたいと思っておりますので、ぜひ議会の皆様方の御理解と御協力をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私は、今からの時代は自然というものが大事な遺産だと思います。この3本の木以上に、またいろんなものが武雄の自然がありますので、それらを大事にしてもらいたいと思います。

次に、この観光というものと農業というものが結びつかないかなというものを考えました。今、農業者は大変苦しんでいます。農業者だけでなく、自営者は大変つらい時期だと思って

います。

そんな中で、私たち、さきの7月に認定農業者会の総会がありました。そこに私も参加しました。その研修として福岡県大和町のホワイトベリーというイチゴの観光農園の若い農事組合法人の理事の方の講演を聞いたのです。この大和町というものはイチゴの一大産地です。最初は、地域の保育園の皆さんや特老施設等の老人会の皆さん等に食べさせるために小さなイチゴのハウスを建てて、そこでイチゴもぎをしながら貢献されていました。それが時代とともに青年農業者の団体である農協青年部の皆さんにどうかしてくれということで譲渡されて、その後、二、三年の間にホワイトベリーというイチゴの観光農園まで持ってきたというようなところですね。そこではイチゴのもぎとりやインターネット等での発信、そして、大きな都市部での小売店への発送等、いろんなことを仕掛けられて安定的な農事組合法人というものができております。

今、国は農事組合法人の設立と育成というものを一生懸命しております。そんな中で、このホワイトベリーではありませんけど、観光と農業というもの、観光というものはイチゴ狩りなり、今ブドウ狩りとか、ナシ狩りとか、伊万里地区でもありますように観光客のお客様、消費者が目の前に来るということです。そんな中で農業が厳しい中でも若い人が頑張っております。それが今の観光農業の現実です。ぜひ、これを武雄でもどうか持ち込むことはできないかなというのが私の提案です。天皇賞までもらったキュウリハウスの見学とそのキュウリを使ったおいしい一夜漬け、黒尾地区には明神の里という漬物の里があります。そんなところと組んだキュウリハウスの見学とその後、武雄の食と温泉ツアーというふうな形、山地を中心につくられているチンゲンサイ、消費拡大をねらってレシピもつくられてインターネット上でも流されております。そこで、チンゲンサイハウス見学と、おいしいチンゲンサイの料理教室、その後、武雄の食と温泉のツアーというふうな、私もJTBの皆さんとつき合う機会がありますが、そんな中でこういうふうな話をすると、おもしろいねということでは言われます。ぜひこんな関係はイチゴハウスも、また、畜産農家でも、あくまでもこの会は農家の方の協力が得られなくてはできない事業です。今までの農業の見学は無料で、ただ圃場を見せるだけというふうな形です。それでは農家には何もメリットはありません。それで、先ほどのキュウリやチンゲンサイやイチゴ、また、私も関係していますレモングラス等などのお土産とセットとなった農業現場の視察、そして、その後、武雄の温泉につかりながらおいしい料理を食べられるツアー、こんなものが、お土産と見学料を、500円か1,000円という有料のような形です。ツアーを組めば農業現場の元気にもなるし、いろんな販売にもつながると思いますので、こういうふうな観光と農業というものができないかなと思っております。

今、唐津ではグリーンツーリズムということで、農家に泊まり込む修学旅行等の企画もなされています。そこまでいなくても、ぜひこういうふうな形で農業の方に幾らかでも収入

増につながるような道をつくるということも大事じゃないかと思うわけですよ。その点、どう思われるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ぜひそれを、山口良広議員を中心にしてまとめていただきたいと思うんですよね。やはりこれは行政がこうすべきだとか、あるいはJTBさんがこうやるというよりは、もうみずからの足でこれをやりたいんだと。ただ、やっていくときに足りないところはここなんだということで我々がそれについて御支援をするというのじゃないと、とても長続きはしないと思っておりますので、ぜひそういった卓抜なアイデアを、その計画に落とし込んで御相談をしていただきたいというふうに思います。

その中でやっぱり感じるのは、これ、以前読んだ本の中に書いてあって、どこかは失念をいたしましたけれども、オーナー制、例えば、山口さんちのレモングラスがありますと。この区画は例えば、福岡にお住まいの上田さん、この区画は熊本にお住まいの浦さんとか、山口さんとかというふうにして自分が所有していると。それを例えば、手紙で送ったり、メールで送ったりして成長しているところをすると、たまに自分が行っていろんなことを聞いてというふうにする、これ何回も来ていただけるんですよ。それと、やっぱり自分のものという意識づけになると、それはかわいいものだというふうに、私が読んだ本にはそういうふうにして書いてあったんで、これは非常に参考になるなというふうに今御質問を聞きながら思いました。

ですので、できればそこにオーナー制度みたいな、この木は松尾さんとか、例えば、このイチゴのこの一画は大河内さんとかというふうにして、そういうことをしながら、その観光と結びつけていただくということ。単に多分観光農園だけをすると、一回こっきりで終わってしまうと思うんですよ。ですので、その成長の過程で来ていただいて、それを先ほどおっしゃっていただいたような温泉とか焼き物につなげていくということがいいんじゃないかなというふうに感じた次第であります。

いずれにしても、ぜひそのプランをまとめていただいて、また相談をしていただければありがたいと思います。考える方向性は一緒であります。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私もいろんな仲間とこの話は煮詰めていって、継続的な形で事業となるように頑張りたいと思っていますので、そのときはよろしくお願いします。

そんな中で農業政策についてです。もうかる農業はどうしたらいいのか、今、農家生活は

大変苦しい時です。この前、繁殖牛農家の青年と話しておりました。子牛の生産原価は40万円ぐらいかかるそうです。それが今、20万円そこそこぐらいにしか売れないということです。先日、平野議員から最低賃金の話がありました。我々農業者だけではないと思います。自営業者に最低賃金が上乗せされて農産物が売れたらどんなに楽になるかなということをつくづく感じたわけです。そのように酪農家にしても同じ。以前は、市内では10年程度前には20戸以上の酪農家がありました。今は4戸に減少しております。このような現状は養豚農家にしても、養鶏農家にしても、畜産農家、施設園芸農家にしても同じです。イチゴ農家、キュウリ農家、チンゲンサイ農家、また花農家と、どこでも一緒です。悲鳴が聞こえるのが現実です。中央で民主党が中心に新しい農業政策に期待するほかないのかなと思います。

そんな中で私が残念でならないのは、農水省が決めました農地の貸し手に対する交付金です。10アール当たり年1万5,000円を貸す方に交付するという制度でした。残念ながら、自民党の惨敗の中でこれも民主党から凍結をされたようです。これは継続事業で5年間となっていました。5年間継続ということは、集落営農にしても、認定農業者にしても、確かに農業新聞等を見ますと、今、借り手のなかとこれ、がん資金ば出したっちゃ同じじゃなかやというような意見もありました。しかし、安定的に借りる制度ができるならば、今、5年間あれば、今持っている機械を更新しても頑張ろうというふうな組織が、この1万5,000円というものは、今までのいろんな制度は農家に対する補償です、生活補償でした。しかし、この制度は農業の振興に絶対つなぐと私は思っていました。私はこの場でこれが凍結されなかったら、武雄版で、農業委員会でぜひこれをうまく使って小作料の減免に、安くするほうに使えたら、たくさんの農地がひよっとしたら動くんじゃないかなということを感じたわけです。そして、それが安定できたならば、今、武雄の米、麦農家では一番問題になっておりますライスセンターがいつまでもてるだろうか、早いうちに補助金があるうちにカントリーをつくらないと、武雄の農業は全滅するんじゃないかなというふうな危惧を感じているのは私だけかもしれませんが、若い認定農業者の会では常に話します。ぜひそこまでつなぐような農業政策をやりたかったわけですけど、今の混迷した農政の中では、民主党が考える所得補償方式という制度がどうなって、戸別の所得補償をしたら、佐賀の農業で個人個人にばらまかれたら、集団で、小池議員もおられますけど、農業を中心とした団体の農業あつてこそその武雄の農業、佐賀の農業だと思っています。そのためにはこの制度をうまく利用したかったわけですけど、これも制度が変わり、どうもこうもなりません。この点の質問は次回か、その次か、制度が充実したときにこの場で真剣に議論したいと思います。

これをもちまして、私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で9番山口……

〔29番「議長」〕

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）

議事進行といいますか、一般質問のあり方について、少し進め方を言いたいんですけれども、ただいま話を聞いてですね、実際の感想を言いますと、全くふざけていると思うんですね。緊張感も何もない。私も言われましたけれども、吉川議員があれだけ住民の心を、気持ちをとるためには現場に行って、写真まで撮られて、パネルまで用意されてですよ、そして訴えられて1つの方向を持っていくと。一生懸命なんですよ、市民の皆さん方の声を聞くために。それは確かに質問は自由ですよ。一般質問だから、どこをしてもいい。しかし、質問がダブったのであれば、それは仕方ないと思います。しかし、どう見ても今の3つの中で吉川議員とダブったとは思えないんですよ。ただ単なる宿り木質問。根も張ってない、何も張ってない、人のしり馬に乗る。それも同じくですね、2つ重なった場合、後に来た人は仕方ないけど言えないですよ、前の人が言えば。そうじゃなくてですね、ここを見てやると、そういうやり方はやっぱり我々議員として、ここでしなければならぬのは市民の皆さんの声を代弁することなんですよ。そこら辺の学芸会じゃないんですからね。やっぱり緊張感を持つべきと思うんですよ、皆さんが。

それとですね、私の場合はいいですよ。私の場合、実は当たり前のことを言いますと、この黒尾のこの道は以前話したんですよ。こういうところをせんですかと、けが人が出る前に、山口さん、がんとこばせんねと、本人に言ったんですよ。しかし、されなかったし、もう会期ですからね。

実は私、繁昌の人から頼まれた、この道は。頼まれたから、山口さんにやった。しかし、ここまでされなかったから仕方なく、私、ここに出しているんですよ。それを言われるのは結構ですよ。前、終わった人をですね、恐らく通告書を見てやられたと思うんですよ。自分とは入っとらんでしょう。こういうことはやっぱりやめましょうと。ぜひ議長、どこかの席でこの話はしとったがいいと。そうしなければ、こんな質問をしているかと思えば、我々一生懸命寝られんごとしてパネルをつくったり、いろいろ考えて現場に何遍でも行ってですね、本当に質問するまで緊張の限りですよ、あさってですけどね。みんなそうやってきておるのに、今みたいに冗談めかしの、できたのに乗っていくというやり方は、ぜひともやめていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

ただいまの議事進行についてでございますけど、一般質問については議員の特権でありまして、私らも制限することはできません。しかしながら、内容について、議員がやはり市民の声を代弁する、市民の代表で質問していただくということで、本当に自覚を持って一般質問をしていただきたいと思います。（「みんな自覚を持ってやりよるさいね」「何てなかでしようもん」と呼ぶ者あり）

何ですか。（「それで自覚持ったと言えんでしょう、何言いよつとですか」と呼ぶ者あり）責任を持ってしていただきたいと思います。

先ほどの議事進行につきましては、事務局と相談の上、今後検討しながら、議員の皆さんにもいろんな面でお願いをしてみたいと思います。

以上で9番山口良広議員の質問を終了させていただきます。